

「モダン建築」に和松大下会館

穴あきブリック ■ タイルで柔らかなく

昨年度 県内初選出

和歌山大学松下会館（和歌山市西高松1丁目）が、日本におけるモダン・ムーブメントの建築」に選ばれた。県内の選出は今回が初めて。モダニズム建築に様々なデザインが加味されていることなどが評価された。60年を超える会館の外観は維持しつつ、館内は2月にリニューアルされたばかり。大学は「地域の学びの活性化につながる」と期待している。

近代建築の保存や調査に取り組む国際組織「DOC OMO」(ドコモモ)の日本支部「ドコモモジャパン」が選定した。これま

でに国内264件の建築物を選び、2022年度、松下会館を含む16件を選んだ。

松下会館は1961年、当時経済学部があったこの地に竣工した。松下電器産業(現パナソニック)を創業した松下幸之助(1894~1989)が5900万円を寄付し、学生施設として利用された。鉄筋コンクリート2階建てで、ファサード(正面)に穴あきブリックを使うなどのデザインが特徴的だ。

設計したのは国の重要文化財「綿業会館」(大阪市中央区)などを手がけた建築家の渡辺節(1884~1967)で、松下が渡辺に直接依頼したという。

ドコモモジャパン登録専門委員長を務める工学院大の大内田史郎教授はモダニズムの建物の随所に意匠が凝らされている点を挙げ、「きつちりとした鉄筋コンクリートの建物にタイルを多用するなど、柔らかな印象を醸しているのがこの建物の特徴だ」と指摘した。

和歌山大学は創立70周年記念事業の一環として2019年から、会館の改修に着手した。外観はそのまま維持する一方、講堂の一部にセミナールームを設けたり、建設の経緯を説明するパネルを設置したりして、リニューアルした。現在は1階部分が、放送大学和歌山学習センターとして活用されている。

選定の知らせを受け、和歌山大学の本山貢学長は「大変光栄に思う。選定を機に、学内外の様々な皆様に積極的に活用頂きたい」とのコメントを寄せた。



①和歌山大学松下会館＝和歌山市西高松1丁目
②和歌山大学松下会館2階にある講堂

